

(財) 日本木材総合情報センター

5 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木は、丸太の生産が増え、入・集荷も回復しつつあるが、平年に比べると依然として少ない状況。慢性的な原木不足の中で、スギは、柱材が大手工場の引き合いが強く順調。好調だった中目材は、一服感が出てきた。ヒノキは品薄感が強く柱材、中目材とも堅調な動きとなっている。価格は品薄感が続いており、スギ柱材は強保合で市ごとに価格が続伸している。中目材は横這いで推移。ヒノキは、柱材が保合で、中目材は、入荷が少なく強含み。群馬は、カラマツにやや不足感がある。工場の操業は、そこそこの状態。製品の受注・販売状況は、県の補助金対象物件を除き低調。価格は相変わらず低位安定で、問屋、センターの閉鎖等が聞こえてきている中、全体として厳しさが増している。

2. 米材

3 月の米国新設住宅着工数は、前月比 1.6% 増の 62.6 万戸となった。米国の 5 月積み丸太は、前月に引き続き中国需要に引きずられる形で値上がりしている。また、カナダの丸太も同様に値上がりしている。4 月の港頭在庫は約 6,250 万スクリブナー(約 28 万 m³)と前月比約 10% 増加。また、ウェアハウザー社の 5 月積み米マツ IS ソートは、10 ドル値上げ。米材丸太は入・出荷、在庫とも横這いで推移。大型港湾製材工場の 4 月の荷動きは、前月とほぼ同様だが、5 月からは競合する RW 集成平角の価格上昇に合わせ、米マツ KD 平角を 2,000 円/m³ 値上げ。内陸部製材工場の荷動きは、依然として回復せず低調。

一方、製材品は入・出荷、在庫状況ともに横這いで推移。米国の住宅着工がようやく底入れとみられ、産地価格が上昇し、カナダから米国向け製品の輸出税が減税から無税へと進む可能性が出てきた。日本向け製品は、原木不足や船腹不足で増える状況になく、また、若干の為替変動があっても、産地価格は据え置きの状態。米材製品は全般的に品薄ながら逼迫感はなく、欧州材や内地材に引きずられて強保合が続くと見られる。

3. 南洋材

サバ州は、好天が続く出材は比較的順調だが、先行き伐採規制の強化、対ドルの現地通貨高、オイル・人件費等のコストアップで原木、製材品とも相場は強含み。特に、品質・サイズ等条件が厳しい日本向けは数量を確保するのに苦慮している。サラワク州は、サバ同様天候はおおむね良好だが、清明節で出材が落ち、現地工場、港頭とも在庫は低水準。インド向け堅木、中国向けセラヤの買い付けが旺盛で、原木、製材品共に相場は強含み。PNG・ソロモンの出材状況は悪く、中国向けは価格や材の内容等で折り合わず、かなり落ちている。

丸太の入・出荷、在庫ともに横這いで推移。製材品の入荷はやや増加。販売は合板用原木、製材用原木とも低迷。製材品は、F O B のアップ等で採算が悪化しているものの、全般的には荷動きがやや良くなっている。

4. 北洋材

ワニノ港は継続して中国向け配船が中心で、バース混みも続いており、日本向けはいずれも配船が遅れ気味。一部のシッパーはバース増や他港への振替を行い、原木・製品を中国向けに活動。また、日本の合板工場向けのカラマツは、ワニノ港からテルネイの単板工場に配船。港頭在庫は高水準だが、既に売約済みでフリー玉は少ない。価格は中国・韓国の引合堅調を受けて高止まり。日本側は3月契約の配船待ちで、新規のオファーは少なく、商いは閑散。合板メーカーのカラマツの買い意欲は悪い。価格は丸太、製品とも横這い。

富山港・富山新港の4月丸太入荷は、12,510 m³(アカマツ 2,369 m³、エゾマツ 9,371 m³、カラマツ 770 m³)と先月比15%減。製品は6,722 m³で先月比33%減。丸太は入荷減少で動きは順調。製材品はアカマツ現地挽き完成品との競合で国内挽きの荷動きは悪い。在庫は1ヶ月である。価格は丸太・製品ともに横這い。国内製材工場の稼働状況は悪く、アカマツの丸太挽きは不採算。

5. 合板

合板用国産材丸太は、全般的に強基調で、特に西日本のスギ、ヒノキの値上げが顕著。南洋材、北洋材丸太も引き続き強含みの状態は変わらず、手当は当用買いに変化なし。3月の国内の合板生産量は約22.2万m³(対前年同月比129%)で、うち針葉樹合板は18.9万m³(同131%)と増加傾向。出荷量は19.7万m³(同131%)で、在庫量は16.2万m³と低水準な状態を維持。国産南洋材合板は、荷動き低調ながら価格はじり高傾向。針葉樹合板は、メーカー側の値戻しへの強硬な姿勢が継続。市場では値戻しの速さに戸惑いながらも先高を懸念し、早めに手当てを進めているところが多く荷動きは好調。一方、輸入合板は、再びタイトな品目が増え始めているが、手当ては当用買いで変わらず。価格は、国産、輸入ともに強含み展開は続く見通し。特に、輸入合板は産地価格が上昇し、国内価格との差が広がっていることから、川上では連休明け以降、本格的に価格転嫁(上方修正)が進むとの見方が強い。

6. 構造用集成材

3月4日から2週間続いたフィンランドの港湾ストの影響で、4月末から5月20日までの入港が少なく、ラミナの品不足が一時発生する。今後に関しては第2クォーター契約分が順調に入荷することは考えにくく、特に、現地が夏休みに入る6~7月にかけて、現地積みは減少することが予想される。このような中で国産集成材の受注は停滞気味で、特にスギに関しては大手生産メーカー2社が撤退し、在庫調整に入っている。5月中には在庫もなくなることから、供給は皆無になると予測。土台のヒノキ化は進んでいるが、スギ、カラマツは供給不安定で需要は伸びていない。在庫は全般的に少ない。集成材価格は、第2クォーターの契約額(260~265ユーロ/m³)、現地採算、国内メーカーの状況等から、第3クォーターも買いが先行し、更なる上昇が予想される。一方、輸入集成材は、現地の工場の採算性から

4～6月積みの契約は高値で推移。フィンランド港湾ストの影響で5月の入荷はラミナ、製品ともほぼゼロの状態。したがって、フィンランド以外の欧州各国から入荷が増えているものの、市場は品薄状況が続く。関東地区を除き全国的には住宅着工が少ない現状の中で、今回の価格上昇は品薄によるものだけに今後の相場がどう動くか未知数。

7. 市売問屋

構造材は、国産材・外材とも4月に入り多少荷動きが出てきている。造作材は、国産材がスギ、ヒノキのフローリング、壁面用化粧加工板に小動き。外材はスプルス桁平割が入荷少なく、引き合いあるものの対応に苦慮。市日の出足は相変わらず鈍いが、普通日の客からの引合い、見積り、積荷が多少活発化している。政府の木材利用に対する活性化対策が徐々にではあるが効果を生みつつある。

8. 小売

国産材の構造材価格は先月同様変わらず。米ツガ KD 平割、正角とも入荷少なく高い。欧州材間柱も入荷少なく強保合。集成材は WW、RW 梁、柱ともに強く、発注から1か月待ちの状況。合板は針葉樹は厚物、長尺と全てのアイテムで値上げ。ラワン合板も強く、塗装パネルは一部欠品。床板は低価格品で200～300円アップ。プレカット工場の受注・加工とも順調に推移。工務店は全般的に多少動きだしてきたが、6月以降は不透明。

[参考資料 需給価格動向 PDF ファイル](#)

【情報提供：特定非営利活動法人 活木活木（いきいき）森ネットワーク】